

令和4年度国立山口徳地青少年自然の家教育事業

# 徳地アドベンチャー教育プログラム「1日体験会」

第1回：令和4年5月15日（日） 第2回：令和4年7月30日（土） 第3回：令和5年3月25日（日）

## 【目的】

「徳地アドベンチャー教育プログラム」（以下「TAP」）を利用する団体の引率の方に、TAPを体験してもらい基本的な理論を理解していただくことで、利用当日のTAPの教育的効果を高める。

【参加者】第1回：5名、第2回：11名、第3回：6名

## 【プログラムの内容】

○TAP体験：目標への達成感とグループの一体感とともに、気づきを促すファシリテーターの関わり方を感じる。

○TAP説明：以下のことを知る

- ・TAPの理論（目的、体験学習サイクル）
- ・チャレンジが人を成長させること
- ・各活動の進め方と意味
- ・ふりかえりの意義

○利用説明会：本所を利用する際に必要な手続きや、利用当日の引率に必要な知識を理解する。

## 「TAP 体験」



初対面の参加者同士の緊張をほぐす活動からスタートした。少しずつコミュニケーションが増えていく中で、人と関わることを心地よく感じるようになっていく様子が見られた。その後、できないことや失敗、ちょっと恥ずかしいこともユーモアにできる感覚を味わうアクティビティを行い、「失敗しても大丈夫」と思えるような雰囲気をつくっていった。活動で感じたことやグループの様子が変化してきたタイミングでふりかえりの時間をもった。出てくる言葉が、徐々に指導者の立場から参加者として自分の感じた内容に変わっていく様子から、グループへの所属感や自分を開放する素地が育まれていったように感じる。



室内での活動の後は、本所の特徴的な施設である「エレメント」を使った活動も行った。互いの考えを共有したり、力を貸しあったりしながら、全員でゴールを目指すなかで、自然とアイデアが生まれていた。引率時の下見のために参加しているにもかかわらず、活動にのめりこんで真剣に取り組む様子が印象的であった。

## 「TAP 説明」



午前中に体験したTAPの効果について、それぞれが感じた事を伝えあった。その後、それぞれが感じた効果を踏まえつつ、本所が考えるTAPの効果や進め方について説明した。説明を聞いた上で、引率の方がどのような目的でTAPを宿泊研修の中に位置付けるか意見が飛び交っていた。

## 【参加者の声】

- ・下見にもなりましたし、楽しく参加できました。
- ・子どもの立場を実体験を通して考えることができたので、これからの指導に生かしていきたいと思います。説明を少なくして、子どもたちに考えさせることを特に意識していきたいです。
- ・野外活動で子どもたちがどのように成長するのか楽しみです。
- ・活動の内容や意義がとてもよく伝わる体験会でした。

## 【成果】

全体を通して、事業について「満足した」と回答した参加者割合は95.2%であり、体験を通してTAPの教育効果を実感してもらってきたと考えられる。また、アンケートの記載やふりかえりの発言から、TAP体験と利用の事前相談を通して、実際の利用に向けたイメージを深める機会となったことが伺えた。

## 【課題】

- ・応募人数が募集に対して少なかった。要因として考えられることとしては、引率者としての下見がしたい団体は多いが、TAPの体験についての動機づけが低いことが挙げられる。参加時の満足度は高かったため、本事業に参加するメリットをアピールすることが重要だと考えられる。